

てるてるぼうずと ふれふれぼうず

かんだ すみこ
荻田 澄子

明日は、さとくんの通う、にこにこ園の遠足です。広
いはらつばのある公園に行くのです。

「いいてんきになるといいね」

おかあさんがいました。

「うん。そうだ！ てるてるぼうず作ろうつと」



さとくんはおか
あさんから、ティッ
シュ三枚と、ハン
カチくらいのおお
さの白い布をもら
いました。
ティッシュをく
しゅくしゅまるめ
て、白い布のまん
なかにおきます。
きゅつとつんで、
わごむをぐるぐる
まいてとめたら、
まるい頭の白いお

ばけみたになりました。ペンで目と口をかきます。

「てるてるぼうず、できたあ」

「かわいくできたね」

おかあさんが、窓の外にぶら下げてくれました。

「♪てるてるぼうず てるぼうず あした てんきに
ておくれ」

さとくんがうたいます。うたいおわったら、窓をばち
んとしめました。

するとその時、庭から、こんなうたが聞こえてきました。
「♪ふれふれぼうず ふれぼうず あした あめにして
おくれ」

「雨がふっちゃだめだよ。へんなうたをうたうのはだ
あれ？」

てるてるぼうずが、ゆらゆらゆれて聞きました。

「ぼくだよ」

こたえたのは、あじさいのえだに、さかさまにぶら下
がった、小さなてるてるぼうず。あじさいのはつばで
作ってあります。

「ぼくは、ふれふれぼうず。雨がふりますようにって、

かえるのけるこちやんが作ってくれたの。明日は、ける

ける園の遠足で、ちよつと遠くの池に行くんだ。かえる

は雨が大好き！ 雨がふると、元気にびよんぴよんとべ

るんだよ」

「雨がふったら、さとくんが遠足に行けないよ」

てるてるぼうずがいました。

「晴れたら、けるこちやんが遠足に行けないの」

ふれふれぼうずもいました。

「さとくとけるこちやん、どっちも遠足に行けるとい

いなあ」

てるてるぼうずが、ゆらゆらゆれました。

「そうだね。どうしたらいいかなあ？」

ふれふれぼうずも、ゆらゆらゆれました。

ゆらゆらゆら、ゆうらゆうらゆうら……

「そうだ！ こうしたら？」

ふたりいっしょに、ゆらんと大きくゆれました。

次の日。さとくんが朝おきたら、ぴかぴかの晴れ！

「いってきまーす」

さとくんは、元気ににこにこ、遠足にでかけました。

ところが、さとくんが遠足から帰ってきたら、雨がぼ

つぽつ、さあざあざあ。



「いってきまーす」
こんどは、けるこちやんたちが、元気にびよんぴよん、
遠足にでかけます。
「今日のはてんきは、晴れのち雨！」
てるてるぼうずとふれふれぼうずは、声をそろえてそ
ういって、うれしそうにゆらゆらゆれましたって。

(おしまい)